

玉造部の人々の祖神を祀った郷社

# 大／阪／の／建／築／まちあるき——「やお・かしわら」

たまおやじんじゃ  
玉祖神社



拝殿

所在地： 八尾市神立 5-93  
最寄駅： 近鉄信貴線「服部川」駅  
北東へ徒歩約40分  
見学： 自由  
TEL： 072-941-8488

玉祖神社は、式内社で高安明神とも言われており、旧社格は郷社である。高安11ヶ村の氏神で、和銅3年(710)周防(すおう)国(山口県)から分霊を勧請したもので、祭神は櫛明玉命(くしあかるたまのみこと)である。玉造部の人々の祖神を祀った物であると言われている。神社の北側を通る十三街道は、大阪の玉造に通じ、玉祖・玉造の地名から何らかの関連があったと考えられる。また、神社の宮寺として石段下に「蘭光寺(おんこうじ)」があったが、明治初年の神仏分離の際に廃寺となった。神社の文化財としては、文治(ぶんじ)元年(1185)12月に、北条時政(ほうじょうときまさ)が蘭光寺に出した「木造の制札」で、日本最古の禁制として有名である。その内容は「蘭光寺は、鎌倉幕府の将軍の源頼朝の祈禱所であるから、寺や田畑、山林などを荒らしてはならない」と書かれてあり、国の重要文化財に指定されている。「木造男女神像」は、御神体として祀られていた玉祖空宿禰夫婦(たまおやすくねふさい)の像とされているが、平安時代の作と思われる。二体とも檜の一木造りで、54・45センチの像高があり、元は彩色が施されていたが、現在は剥落し女神像の後ろ髪の一部に黒く彩色されていたあとが窺えられ、府の重要美術品に指定されている。その他、大阪府指定の天然記念物の「くすのき」や豊臣秀頼寄進の「石灯笼」などがある。参道は東高野街道沿いの高安中学校の石の鳥居から始まり、鳥居から約500メートルは大きな松の並木道となっており「高安松の馬場」と呼ばれていたが、現在は、1、2本を残すのみで、松の馬場の面影は無くなっている。さらに登っていくと、急な坂道の両側に家並みが続き、家並みが途切れると玉祖神社の大きな「くすのき」と急な石段・鳥居が現れる。境内の入口の横には、布団太鼓の収納建物があるが、7月下旬の夏祭りは「高安たご祭り?」と呼ばれ地元5台の布団太鼓が集結し勇ましさを競い合う、迫力満点の、一度は見て欲しい、八尾の夏のイベントの一つだ。(新田俊明)



鳥居と石段と神木の「くすのき」



布団太鼓の建物



境内からの市内の眺望